

普及だより

●編集発行

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

肝属地域農業改良普及事業協議会

ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6

TEL：0994-52-2143

FAX：0994-52-2147

<新年あけましておめでとうございます>

◎肝属地域農業改良普及事業協議会会長（鹿屋市長：中西 茂）

皆様におかれましては、希望あふれる新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

肝属地域におきましては、昨年末、東九州自動車道の鹿屋串良～曾於弥五郎間が開通しました。さらに今年は大隅加工技術拠点施設が本格稼動するとともに、肝属中部地域畑地かんがいの通水に向け着実に事業が進められるなど、今後の地域農業発展の大きな追い風となることが期待されております。

また、昨年度から担い手への農地集積・集約化を進める農地中間管理事業が始まったところであり、このような国の施策・事業を積極的に活用しながら、農業基盤の一層の充実・強化に取り組んでいく必要があります。一方では、担い手の高齢化や後継者・労働力不足への対応や、豚流行性下痢（PED）等の家畜疾病対策の充実・強化など多くの課題を抱えており、このような課題の解決に取り組みながら、厳しい環境変化と闘える足腰の強い農業経営の確立や農村の持つ多面的機能を発揮することなどが求められております。当協議会は、このような現状・課題を踏まえつつ、関係機関・団体と緊密な連携を図りながら、引き続き、地域農業・農村の発展に尽力してまいります。

結びに、皆様の御多幸と災害のない平穏な一年であることを心より祈念申し上げます。

◎大隅地域振興局農林水産部農政普及課長（久良木知典）

皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと思います。

本年4月には、大隅加工技術拠点施設(仮称)が開設します。従来の素材提供型の農業から価格支配力を高めた一次加工等による高付加価値農業への展開を目指しており、今後の大隅地域農業の発展が大いに期待されます。また、受益面積が1,537haにも及ぶ肝属中部地域畑かん事業も平成28年度末の一部通水に向けて工事も着々と進みつつあります。東回り高速道も鹿屋串良までが開通し効率的な物流が期待できます。このように新食料供給基地大隅の形成に向け大きなプロジェクトが着々と進行しています。

担い手へ農地集積・集約化、新規参入等による農用地の効率的利用の促進等を通じて、農業の生産性向上を図るため、昨年、農地中間管理機構が設置されました。機構集積協力金などの支援策も仕組まれており、地域内での積極的な話し合い活動を通じて、この制度を効果的に活用しながら地域農業を盛り上げる必要があります。

時代は大きく変化しつつあります。食品関連産業も含め農業が基幹産業である肝付地域にとりまして、元気の農業の実現と活力あふれる地域づくりが最重要課題であります。このような中、普及活動につきましては、関係の皆様と十二分に連携し、地域や産地の目指すべき目標の達成に向け、人・農地プランや担い手・新規就農者対策、園芸・茶・畜産の振興などそれぞれの課題解決を通じた総合的な活動を展開することとしております。

最後に皆様方の御多幸を祈念し、肝属地域の農業にとりまして、素晴らしい一年となりますよう心よりお祈りいたします。



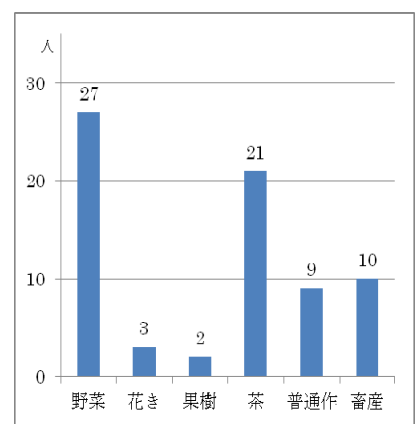
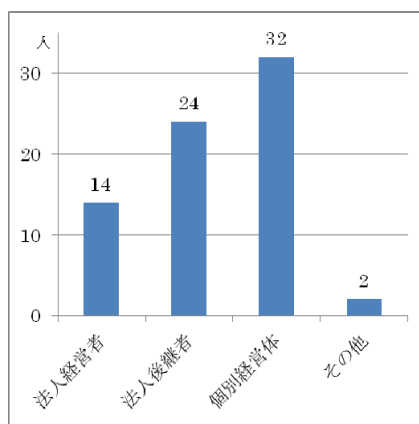
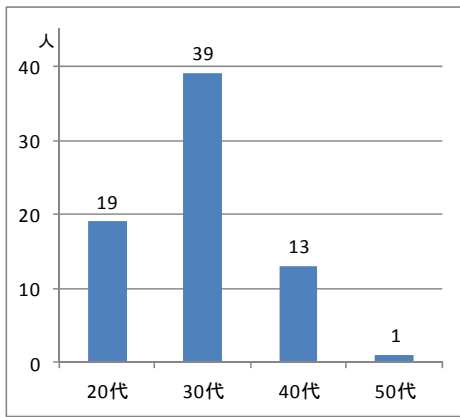
＜大隅地域の『次世代経営者』を育成＞

～「おおすみ農業法人経営者塾」3年間のあゆみ～

大隅地域（肝属及び曾於）では、次代の大隅農業をリードしていく「次世代の若手経営者」を育成するため、平成24年度より「おおすみ農業法人経営者塾」を実施してきました（平成27年1月末で3年間の県事業を終了）ので、その3年間のあゆみを紹介します。

塾生は、**大隅地域で営農を行っている農業者や農業法人経営者、及びその後継者**（原則50歳未満）の方々を対象として、この**3年間で計72名が受講**しました。

受講生の各項目別割合で最も多いのは、年齢構成では30代（平均年齢は34.4歳），経営形態別では個別経営体（44.4%），営農部門別では野菜（37.5%）でした。

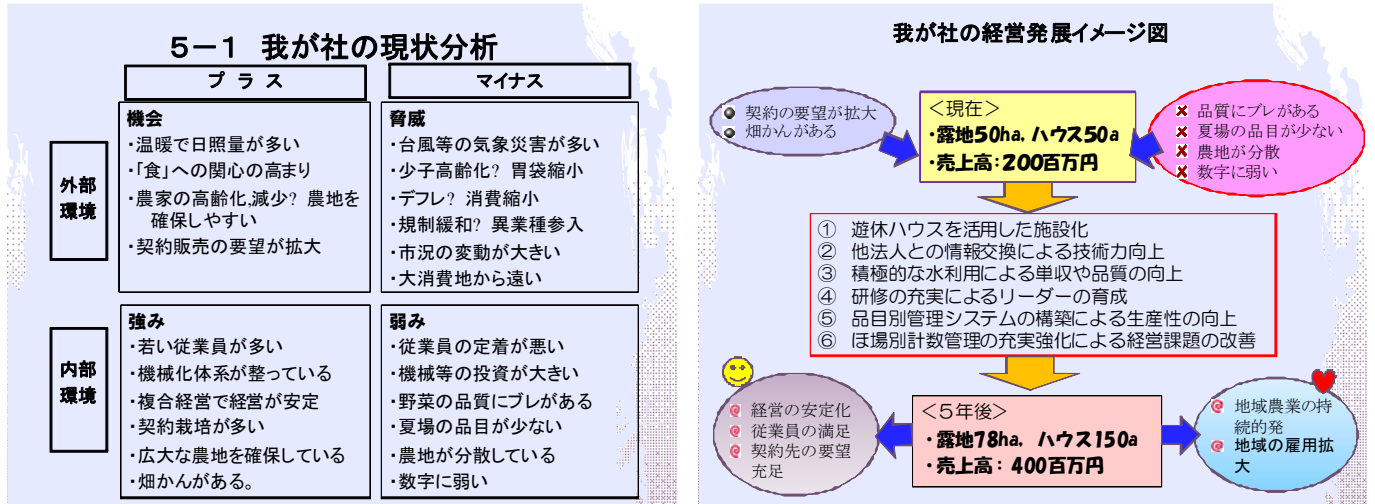


講義は、**企業家に必須のマネジメント能力を高めるため**各回ごとにテーマが設定され、「トップ経営に学ぶ」「販売戦略」「リスク管理」「経営革新」「経営戦略」などを、県内外の名だたる経営者や著名な専門家より学びました。

トップ経営	販売戦略	リスク管理	経営革新	経営戦略	記念講演
 （株）野菜くらぶ 澤浦彰治氏 （群馬県）	 イオン九州（株） 立石弘司氏 （福岡県）	 （株）日本政策金融公庫 三河敬氏 （鹿児島支店）	 （株）玖車体研究所 TQM推進室 （鹿児島県霧島市）	 九州大学大学院 南石晃明氏 （福岡県）	 （農事）和郷園 木内博一氏 （千葉県）
 （有）トップリバー 嶋崎秀樹氏 （長野県）	 ホシノアグリ研究所 星野康人氏 （千葉県）	 （株）日本政策金融公庫 菊池潤氏 （鹿児島支店）		 佐賀大学大学院 西和盛氏 （佐賀県）	 こと京都（株） 山田敏之氏 （京都府）

また、全ての塾生は「わが家(社)の経営戦略」を作成することとしており、各回ごとに塾生同士や進行役である県農業開発総合センターの農業専門普及指導員等と意見交換しながら作成しました。

自らが経営者としてわが家(社)を今後の経営の方向性を明らかにするため、現状分析のための「SWOT分析」に始まり、「経営理念」「5年後の目標」「目標を達成するための具体的な行動計画」「地域農業の発展に果たす役割」などを、真剣に議論しました。



年間6回の塾と県外先進地調査、シンポジウム&閉講式を含め「一定回数以上の出席」と「わが家(社)の経営戦略」の提出をもって「修了」を認定しますが、過去2年間は各20名が修了し、最終年度である本年度も同数以上の修了を目指しています。

塾修了生には、その後も塾生の作成した「経営戦略」の実践に向けた取組の中で、具体的な助言を希望される方には、**専門家を個別に派遣し実践支援活動を展開**してきました。

主に、販売戦略面でホシノ・アグリ・コミュニケーション研究所の星野先生に商品パッケージ及びリーフレット作りに向けた発想のポイントや、(株)トヨタ車体研究所TQM推進室の方々に「3S(整理、整頓、清掃)活動」に基づく現場管理のあり方などについて、半数以上の22名が支援を受けました。



最後に、本年度までの3年間で「県事業」は終了しますが、平成27年度からは「地域振興局独自の経営者塾」として継続し、「新規就農者・参入者」をできるだけ早く「課題解決能力のある青年農業者」へ、そして「**大隅農業をリードする次世代の若手経営者**」として経営を確立できるよう、必要とされる支援を継続していきたいと思ひます。

知って**得**する! 技術情報!! ~ 経営編 ~

< なんとかなっている今こそ、集落営農に取り組もう! >

集落営農とは、農業生産や集落がより良くなるしくみを集落のみんなで話し合い、実践していく取り組みのことです。肝属地域には、集落営農が11組織（うち集落型農業生産法人が2組織・特定農業団体2組織）が、話し合いによる地域の発展段階に応じた「地域営農のしくみづくり」に取り組んでいます。その一部を紹介します。

【 地域づくり活動 】

川上地区むらづくり委員会（肝付町）



そば



地域を挙げて耕作放棄地(70a)を解消しそばを栽培。
そば打ち体験等のやまびこ館(直売所)を核とした交流活動。

H26 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動 県知事賞を受賞

【 営農組合の取り組み 】

神川地区集落営農組合（錦江町）

三和営農組合（垂水市）



水稲の作業受託



役員会での話し合い



なたねを栽培・精油所へ出荷



【 法人の取り組み 】

うましさと吾平水田営農組合（鹿屋市）

（農）上部えい農組合（錦江町）

（農）アグリサポート獅子目（鹿屋市）



新規品目のレタス



稲刈り受託作業



定例会での作業計画検討



WCS や飼料用米の生産販売

知って**得**する!技術情報!!～野菜編～

< 野菜編 >

<一部農薬の登録削減について>

今回、農薬の安全を一層担保するため、農林水産省は農薬の残留性について短期暴露評価（注※）を導入し、これに基づき各農薬メーカーにすべての農薬について基準を見直すように要請、その結果一部農薬において登録の削除や変更が申請されました。

なお、**現在在庫分の農薬についても登録削除が適用されます。**

これ以降、順次他の農薬でも同様の登録削減及び変更が予定されていますので農薬の登録情報について最新の情報を常に確認するように心がけましょう。

平成26年11月11日の時点で登録削減申請のあった農薬と対象品目

	ガゼット粒剤	オンコル粒剤5	オンコル粒剤1	オンコク粒剤	オンダイアエース	オンコルスタークル粒剤	オンコルマイクロカプセル	グランドオンコル粒剤	シャッシン箱剤	石原アドバンテージS粒剤
なす	×	×	×		×	×			×	
きゅうり メロン	×	×	×			×				
すいか	×	×	×		×					
いちご	×	×								
おくら		×		×						
とうがん	×	×		×						
ほうれんそう ナバナ		×								
ブロッコリー	×	×			×					
カリフラワー 非結球レタス ニラ							×			
キャベツ	×	×	×		×		×	×	×	
はくさい		×	×		×		×			
結球レタス わけぎ		×					×			
ねぎ	×	×	×		×		×		×	×
にら							×			
だいこん	×	×	×		×					×
かんしょ		×		×						×
ばれいしょ	×	×			×					

×印は今回登録が削除された品目。空欄は元々適用がない品目

(注) 見直しの内容について

現行の評価・・・長期暴露評価（一日摂取許容量を評価基準とする）

一日摂取許容量・・・人がある物質を毎日一生涯にわたって摂取し続けても健康への悪影響が無いとされる一日当たりの許容量

新規に加えられた評価・・・短期暴露評価（急性参照量を評価基準とする）

急性参照容量・・・ヒトがある物質を24時間又はそれよりも短い時間で口から摂取した場合に健康への悪影響が無いとされる一日当たりの摂取量

知って**得**する! 技術情報!! ～果樹編～

<低樹高・縮間伐で省力化と品質向上を図る>

1 低樹高

果樹は樹が大きくなると、摘果、病害虫防除、収穫、整枝せん定等、様々な管理作業が困難で、作業効率が悪くなります。そこで、枝の誘引やせん定により、樹を低く仕立てるとそれらが改善され、更に日光も当たりやすく、薬剤も散布ムラが少なくなるため品質が向上します。また、施設栽培では高温障害対策としても必要になります。

(1) ビワやマンゴーの事例

低樹高栽培については、主枝3本で水平からやや上向き(10～15度)になるよう誘引し、杯状形に仕立てます。徒長枝は出やすくなるため、芽かきや誘引等細かい作業が必要です。



(ビワの低樹高栽培)



(マンゴーの低樹高栽培)

(2) 柑橘類の事例

低樹高は樹種にもよりますが、主枝を2.5m～3m程度を目安とし、枝のあるところで切り下げます。

また、作業管理も考慮し樹の幅を決め、切り込むと樹がコンパクトになり作業性が向上します。

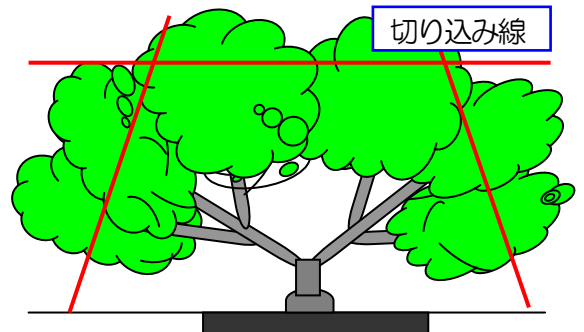
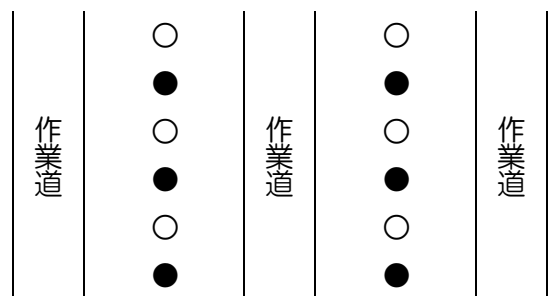


図1 柑橘類の開心自然形樹の低樹高事例

2 縮間伐

果樹園が密植状態になると品質が低下し、隔年結果が多くなり、作業能率も悪くなります。そのため植え付け時から永久樹と間伐樹を決め、計画的に縮間伐を行う必要があります。

間伐を行えば一時的に収量は減りますが、長期的に考えると収量も回復し、更に果実品質が良くなり、機械等による作業性も向上し、結果的には所得が向上します。



●：永久樹 ○：間伐樹

図2 縮間伐の事例

知って**得**する! 技術情報!! ~畜産編~

<1年1産を目指して>

肉用牛繁殖経営においては、分娩間隔を短縮し子牛を産ませることが最も大切です。分娩間隔を短縮することで、1回の分娩にかかる母牛の飼料費が低減するとともに、子牛の出荷頭数が増え、粗収入の増加につながります。

1 肉用牛繁殖カレンダーの活用

- 1) 人工授精をしたら母牛名を日付の下に記入します。次回発情予定日が下の日付になります。
- 2) 授精をして再発がこなければ、最終授精月日の赤字の月日が分娩予定日です。

肉用牛繁殖カレンダー

木曜日		金曜日		土曜日		日曜日		月曜日		火曜日		水曜日		木曜日	
1/1	10/13	1/2	10/14	1/3	10/15	1/4	10/16	1/5	10/17	1/6	10/18	1/7	10/19	1/8	10/20
		例) はなこ		分娩予定日											
1/22	11/3	1/23	11/4	1/24	11/5	1/25	11/6	1/26	11/7	1/27	11/8	1/28	11/9	1/29	11/10
		次回発情日				種付した日に母牛名を記入									

注) 妊娠期間は285日で計算してあります

2 母牛管理台帳の活用

- 1) 母牛が分娩したら左端に母牛名を、次に分娩日と子牛の性別を記入します。
- 2) 初回授精月日は分娩後60日以内になるように発情の発見に努めましょう。
- 3) 受胎確認をして、最終授精月日を記入し分娩予定日を記入します。

母牛管理台帳

	母牛名	種雄牛名	分娩月日	性別	初回授精日	最終授精日	受胎確認日	種雄牛名	分娩予定日
例	はなこ	華春福	1/24	♂	3/28	4/18	6/20	喜亀忠	2016/1/28

3 分娩間隔の短縮

- 1) 管内の分娩間隔は現在407日です。分娩間隔を1年1産の目標365日にしたらどうなるでしょう。

(試算)

母牛10頭経営で、子牛価格を50万円平均で試算すると

分娩間隔407日の子牛生産頭数は 9頭/年, 子牛価格 50万円 × 9頭 = 450万円

分娩間隔365日の子牛生産頭数は10頭/年, 子牛価格 50万円 × 10頭 = 500万円

子牛の生産頭数が1頭増加して、粗収入が50万円増加します。

終わりに、分娩間隔を短縮し1年1産を目指すには、

母牛の分娩前後の増飼いによる、適正な栄養管理に努めましょう。

毎日、朝夕に時間を決め、観察を行い発情発見に努めましょう。

分娩日から60日以内に発情のない牛は、早期に治療しましょう。

< 青年農業者会議で意見発表・プロジェクト活動発表 >

肝属地区農業青年クラブ連絡協議会は、青年農業者会議を10月7日開催しました。この会議は肝属地域の青年農業者が一堂に会し、日頃の実践活動から習得した知識・技術を発表・意見交換し、自己の研鑽、農業青年活動に対する意欲の高揚並びに地域農業振興へ寄与することを目的としています。主な内容は、意見発表とプロジェクト活動発表で、合計5名の発表がありました。

< 意見発表部門 >

発表者氏名	クラブ名	発表課題
吉井 隆志	串良町4Hクラブ	農業経営への道(始動)
上村 伸子	鹿屋農業青年クラブ	土触系Mamaならではの悩み ~みんながHAPPYになるために~
松倉 道成	東串良町4Hクラブ	夢の実現に向けて



3名の方が、就農のきっかけ、農業の楽しさや大変さ、クラブ活動のやりがい等を発表しました。最優秀賞の鹿屋農業青年クラブ上村伸子さんは、「農業者」としての充実だけでなく、「母親」としての充実も目指していこうと、熱く語りかけました。上村さんの明確な自己主張と行動力は高く評価されましたが、どの発表も自分自身を奮い立たせるとともに、観衆の共感を呼ぶ内容でした。

< プロジェクト活動発表部門 >

発表者氏名	クラブ名	発表課題
下園 政雄	ほよし耕心会	イネづくり、どれがベスト? ~我が家の栽培マニュアルづくり~ (水稻部門)
前田 吉海	串良町4Hクラブ	仲間がいれば、なんでもできる! ~活動の源! お助け隊~ (地域活動部門)



下園政雄さんの発表

下園政雄さんの発表は、早期水稻の品種ごとに最適な栽種密度を探索する内容です。単に収量の高さだけでなく、コスト等を考慮して、最適な栽種密度を判明させました。本人にとっては勿論、地域農業者にとっても非常に貴重なデータを得ることができました。

前田吉海さんの発表は、クラブ活動の起死回生策として、仲間と取り組んだ「お助け隊」という互助活動です。「お助け隊」は、年を追うごとにクラブ員の協力体制が成熟してきました。すなわち、無理をせず、楽しんでやりながら、大きな成果を得ることができるようになってきました。

両者の発表ともに、課題解決方法や成果が分かりやすく整理されていました。このようなことから、二人揃っての最優秀賞となりました。



前田吉海さんの発表

- 今年度最優秀賞の3名は、2月開催の県大会に出場します。
- また、昨年度最優秀賞(意見発表部門)の大平龍美さんは、県大会・九州大会でも最優秀賞を獲得し、27年3月の全国大会に出場します。

皆さんも後に続きましょう!!